伊勢物語 ・東下り・

あらすじ 次の空欄に適語を入れて、内容を整理しなさい。

第一段	第二段	第三段
昔、ある男が、〔①　　〕を離れて東国に旅立ち、やっと三河の国の八橋までたどり着いた。そこで〔②　　〕の折（おり）句（く）に旅情を託して詠み、一行も同じ思いに泣くのであった。	さらに東へ進み、駿河の国の宇津の山を越えてゆくとき、〔③　　〕に出会い、それに〔①　　〕への文を言づけた。また初めて見る富士の山に驚いた。	さらに進んで、隅田川に到着した。舟に乗るときに、〔④　　〕を見て、いよいよ〔①　　〕を恋しく思うあまり歌を詠んだ。一行も同じ思いに泣くのであった。

重要語句 次の語句の意味を答えなさい。

(1) おもしろし

(2) いかでか

(3) つごもり

重要文法 次の各問いにそれぞれ答えなさい。

1 傍線部「し」を文法的に説明しなさい。

(1) 見し人なりけり。（六二・1～2）

(2) 名にし負はば（六二・15）

(3) ありやなしやと（六二・15）

2 「から衣」（六一・8～9）の歌について、傍線部の掛詞を答えなさい。また、「衣」の縁語を**全て**答えなさい。

から衣　着つつなれにし（A）つましあれば
（C）はるばる（D）きぬる　旅をしぞ思ふ

縁語	
A	褻れ
B	褄
C	張る張る
D	着

内容理解 次の各問いにそれぞれ答えなさい。

1 男が都を離れて旅立つ理由が述べられている部分を、本文から抜き出しなさい。

2 「住むべき国」（六〇・12）とは、男にとってどのような所だと考えられるか答えなさい。

3 「すずろなるめを見る」（六一・15）の意味として適当なものを次の中から**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア　落ち着かない感じがする。
イ　心細い思いをする。
ウ　思いがけない目にあう。
エ　つまらない思いをする。

4 「駿河なる」（六二・3）の歌について、「人にあはぬ」の「人」は、「から衣」（六一・8～9）の歌ではどのように表現されているか。歌から**二字**で抜き出しなさい。

5 「時知らぬ」（六二・5）の歌について、「時知らぬ」とは、どのような山の状態か。本文から**二十字以内**で抜き出しなさい。

6 「わび合へる」（六二・10）とは、何を「わび合」っているのか。次の中から適当なものを**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア　川を渡ること。
イ　都から遠く離れてしまったこと。
ウ　日が暮れたこと。
エ　都鳥が飛び立ったこと。

7 次の文は、「から衣」（六一・8）、「駿河なる」（六二・3）、「名にし負はば」（六二・15）の歌に共通する心情を説明したものである。空欄にあてはまる語句を補って文を完成させなさい。

から［A］に残してきた妻を、遠く離れた［B］から［C］思う気持ち。